

特集
菖蒲 がつなぐ **心**



展望台から菖蒲をのぞけるよう、山の整備をする



1,2_高台から見下ろした菖蒲園。ピーク時には色とりどりの菖蒲をのぞくことができる／3_シュロの木で作った階段。長持ちする腐りにくい素材で作る／4_菖蒲園の中の畝を作る機械／5_菖蒲の花は3回咲く。咲いた芽を摘み、新しい芽の出芽を待つ／6_来訪者のためのベンチに色を塗る。備品は手作りの品が多い／7,8,9,10_機械で草刈り。菖蒲の間は機械が入れないため、手作業で草を抜く

人が風景をつくり
 風景が人をつなぐ。

花菖蒲園の始まり

市内が誇る観光地の一つ、河之内地区の白猪の滝は、四季折々の自然を眺めることができる。白猪の滝の無

料駐車場から徒歩5分ほど登った場所に期間限定で開園する花菖蒲園がある。毎年6月〜7月にかけて園内に約2000株の菖蒲の花が咲き誇る。菖蒲園をこれまで管理していたのは近藤



1_市民提案活動支援事業で建てた作業小屋。昨年度よりも強度が増した／2_菖蒲園を開園した近藤ミヤ子さん／3,5_白猪の滝公園内で行われた「ichi.494 マルシェ」／4_マルシェの日に菖蒲園前で販売されたかき氷。開園中の土日は菖蒲園でかき氷を販売

ミヤ子さん。旦那さんと一緒に花菖蒲園を作ったのが20数年前。「始めは各地から苗を取り寄せました。規模は小さいものでしたが、毎年手入れをし、徐々に広がっていきました。整備は大変ですが、花菖蒲園を開くとたくさんの人に声を掛けてもらえることが嬉しかったです」と近藤さんは話す。しかし、広大な敷地を管理する難しさから近年は続けることに限界を感じていた。「も

うやめようかと思っていましたが、開園してからこれまでの思いがあり、地域の人に声を掛けました」と近藤さん。そこで、数年前から地域の人や地域おこし協力隊の隊員などが協力して花菖蒲園の整備を行うようになった。

新たな菖蒲園づくり

今年には花菖蒲園の開園を手伝っていた人たちを中心

に「白猪の滝菖蒲園保存会」が立ち上がった。保存会のメンバーは現在6人。保存会は今年3月に出来上がったばかりだ。活動は、花菖蒲園の整備と9時〜17時の開園時の当番だ。



幼い頃の思い出の野いちごを頬張る高須賀文吾さん

「近藤さんに話を持ち掛けられたとき、地域の人に声を掛けました。地域おこしの一つとなればと整備をしています」と汗を流しながら作業に打ち込む保存会の廣瀬良平さん。

整備の日、花菖蒲園のぞくことのできる高台周辺の草刈りをしてきた保存会の高須賀文吾さんは、「昔は初夏の時期に白猪の滝辺りで収穫した麦のわらをもらって籠を編み、白猪の滝へ野いちごを採りに行きました。今日の草刈りで野い



長年、夫婦で園内の整備を手伝っている

ちごを見つけ、幼い頃を思い出して草刈りを少し躊躇いました。ここは私にとっと思いの場所です」と話した。今年も高台から菖蒲を眺めてもらえるようベンチが備え付けられている。「東温市に帰って来たときに今の菖蒲園ができていました。懐かしい風景を思い出し、どれほどできるかわからなけれど、できる限りのことはしたいと思いました。もう少し昔にやっていたらと思うけれど、これからではなく今やれてよかったです」と高須賀さんは話す。

アイデアを生む

新体制だからこそ、新しい取り組みも考えている。「近藤さんが今までやっ



園を彩る菖蒲に來園者は笑顔を見せる

てしまうのはもったいないので、できる限りは今後も続けていくと思います。ただ、人数が足りないのでは若い人や地域外の人でも積極的にやってくれる人と一緒に菖蒲園の整備をしたいです。保存会のメンバーは地区内に限定していません。逆にそのほうが今の時代に合っているのかなと思っています。今年は入園料ではなく、協力金として徴収しました。手伝ってくれる人たちに何か還元できればとアイデアを模索中です」と大石さんは笑う。



1



2

1_菖蒲の花が咲き誇る園内。6月中旬に見頃を迎えた/2_園内を散歩できるよう畝が整備されている



白猪の滝菖蒲園保存会代表の大石二三男さん

近藤さんは開園前に新たな芽が出るように毎日花を摘んでいたようで、これまでもそれほど大変だったのかと驚きました」と話す保存会代表の大石二三男さん。高齢化が進んで、このまま終わりにするのは惜しい、と集まったメンバーは話す。「名所が一つ無くなっ

てきたことを引き継ぎながら、新しいこともやってみたいと思っています。今年は紫陽花の花を浮かべて、地下水で花手水を作りました。来年もみんなで相談してできることをやっていければと考えています。一人ではできないことも、みんな力を合わせればできることもあります」と保存会の浅野和雄さんは汗を拭いた。

た。例年、菖蒲園を訪れる人は比較的高齢者が多いが、マルシェに来るお客さんは20代や30代の若い層の人たちや家族連れが多い。マルシェの開催は幅広い年齢層の人が訪れるきっかけとなった。今年始めたことで課題も見えてきた。「開園するまでの整備にものごく時間が掛かっただ。菖蒲の間には機械が入らず、手で雑草を抜かなければいけないことが大変でした。手で抜くのは時間も労力もかかり、人手が足りません。それに、



1



2



3



4

1_整備中に見つけた野いちご/2_色とりどりの菖蒲/3_紫陽花を浮かべた花手水/4_花手水の周囲の竹は手作り/5_作業中の一コマ



5

これからの菖蒲園

今年の花菖蒲園は6月末で閉園。ほぼ毎日、当番の人がかき氷やコーヒーなどを販売。今年も6月中旬に見頃を迎え、訪れた客を喜ばせた。閉園後の7月末には、紫陽花の花摘みを予定している。紫陽花の花を摘むと、次の芽が出る。今、来年に向けての一步が始まるうとしている。

「花菖蒲園ができた頃から、ずっと手伝いに来てくださっている夫婦もいる。皆さんそれ

ぞれ花菖蒲園への思いがあります。花菖蒲園を作りこれまで続けてくれた近藤さん、今整備をしている保存会や地域の人、見に来てくれる人のためにも続けていきたいと思っています。まだ1年目。とりあえずここまでやってきた。でもこれからは未知です。続けられる方法を今後模索していきます」と大石さんは明日を見据えた。

2人が始めた花菖蒲園。時が進み花菖蒲園という風景が人と人をつなぐ。言葉のいらないメッセージのように――

紫陽花の花摘み



剪定した花は持ち帰ることができます。

- ◇日時…7月18日(月)9時～
- ◇場所…白猪の滝公園、花菖蒲園
- ◇持ち物…剪定用ばさみ、軍手